



2021年4月4日イースター感謝礼拝

日本同盟基督教団 クリスチャンプレイズチャーチ

## 【イエスキリストの復活の真実とその証拠】

説教者：鄭南哲牧師

本日聖書箇所：マルコの福音書16章1-11節/暗唱聖句：ローマ人への手紙10章9-10節

(新改訳2017版)

2021年今年もイエスキリストの復活を祝うイースターおめでとうございます！復活の朝、よみがえられ、今もなお生きておられ信じるすべての者と共におられるインマヌエルのイエスキリストが、復活の主を見上げ、礼拝を捧げる皆様の上に、みなさんのご家庭の上に主の大なる御恵みと平安が益々豊かに注がれますように心からお祈り申し上げます！今まで世界の多くの法律家たちがイエス様の復活を証するたくさんの本を記録したことはとっても意味深いことのひとつです。あらゆる証拠と状況を論理的に分析する法律家たちがイエス様の復活を黙想しながら否定できない明白な証拠と確信を持ってイエス様の復活を証言しました。世界のギネスブックに弁護牛数として一番多く成功した者として記録に載せられているライオネル・ラクラムという弁護士は連続して245件の事件を勝訴（しょうそ）した成功記録の弁護士ですが、彼はイエスキリストの復活の出来事を法律と証拠に基づいて検討し続けて見た結果、次のような告白をしました。“イエス様の復活の件に関して、その証拠に圧倒されて疑える何の余地もなく、その復活の事実を受け入れざるを得ない”と告白しました。イエス様の復活を証言している福音書の中で、イースター主日の今日の朝はマルコの福音書16章の御言葉を通して、もう一度イエスキリストの復活を確かめ、この復活の主を証するみなさんとなりますよう切に祈ります。

### <逆説的なイエスキリストの聖書の復活の証拠と記録>

①イエス様の復活の当時、イエス様の弟子たちの姿はとってもアイラニカル的（皮肉的）です。なぜなら、イエス様の復活を体験した弟子たちはみんな信じ難かったという点です。それだけではなく、イエス様の復活を目撃しては震え上がっていました。

今日の本文によると、イエス様のお墓に行った女たちはマグダラのマリヤとヤコブの母マリヤとサロメでした。彼女らはイエス様の十字架のところまでついて行ったし、イエス様がお墓に葬られることも見守ったはずですが、しかし、イエス様に対する信仰もとっても深かったはずの女たちでしたが、復活のイエス様に出会ってからはまるで幽霊を見たかのように、恐れ震え上がってお墓から逃げ去ってしまいました！そして、しばらくの間、だれにも何も言えなかったことが分かります(8節)。ほかの福音書によると、弟子たちでさえも、イエス様の復活を期待してなかったことが分かります。よみがえるとイエス様から直接お言葉を聞いていた弟子たちだったのにもかかわらず、弟子たちは相変わらず、イエス様のお言葉を信じるより、自分たちの今までの生きて来た経験と人の常識でとらわれ、思い込んでいたため、十字架で間違いなく完全に死なれたイエス様がよみがえられることなんて、当然ありえないことだったので、イエスキリストの復活は期待もしなかったわけであります。実際イエス様がお言葉の預言の通り、三日目によみがえられた証拠として、ご自身を弟子たちに表して下さった時にもしばらく、疑ったり、信じ難い反応を示したことが聖書を通して分かります。

ヨハネの福音書20章3-10節を読んで見ますと、イエス様の弟子だったペテロともう一人の弟子が直接イエス様のお墓に行ってイエス様を巻いていた亜麻布が置いてあって、イエス様の頭に巻かれていた布切れは、亜麻布と一緒になく、離れた所に巻かれたままになっていたのを見たのにもかかわらず、**9節に「彼らは、イエスが死人の中からよみがえらなければならないという聖書を、まだ理解していなかった。」**と記されています。

今日の聖書の本文11節を見て見て下さい。よみがえられたイエス様と出会ったマグダラマリヤがすぐに帰って他の弟子たちに行って、復活のお知らせを伝えましたが、弟子たちはイエス様の復活の出来事を信じようとしなかったと書かれています。**「彼らは、イエスが生きていて、彼女にご自分を現された、と聞いても信じなかった。」**  
**(新改訳3版では、「ところが、彼らは、イエスが生きておられ、お姿をよく見た、と聞いても、それを信じようとはしなかった。」)**今日もそうですが、イエス様の当時にも、イエス様の復活の出来事の直後しばらくは、イエス様を信じ、ついていた人々さえも、イエス様の復活が信じられませんでした。実はそのような反応は当然かも知れませんが、今まで人が見ても、経験したことも、聞いたこともまったくなかったことを目撃し、体験したわけですから。  
しかし、イエスの当時も、今日も人が信じようが、信じようとしないうまく関係なく、聖書に明らかに書かれ、しばらくの後、多くの人々がよみがえられたイエス様と出会ったように、イエス様の復活は歴史上、実際死から三日目に起こったし、復活されたイエス様ご自身を通して、復活の記録が事実である事を表してくれます。

もしもかりに、イエス様の復活に関する聖書の記録が偽りで、他の人たちを信じさせるために、弟子たちが勝手にうそで記録したならば、決して聖書はこんなに正直に記録されなかったはずではありませんか。うそで、イエス様がただ普通の人で過ぎなかったのに、偉い存在にさせたくて、ほかの人々を信じさせるために、うそをついた人々が自分たちも疑ったり、信じようとしなかった(ヨハネ20章ではイエス様の弟子の一人、トマスは直接よみがえられたイエス様とあっても信られず、刺されたところや、釘付けられたイエス様の傷のところなど触って見て、ようやく信じるのが出来た記録など)ということばかり書いて、他の人を信じさせようとしたとは到底考えられません。聖書ではイエス様の復活について率直に、起こされた事実通りにくわしく、そしてとっても逆説的に証して

下さっています。

最後まで疑っていた弟子の一人トマスがイエス様の手と脇腹(わきばら)に手を入れて見てからようやく「**わが主、我が神(ヨハネ20章28節)**」とイエス様が確かによみがえられたと信じた時に、イエス様は彼にこう語って下さいました。**ヨハネの福音書20章29節に「イエスは彼に言われた。あなたはわたしを見たから信じたのですか。見ないで信じる人たちは幸いです。」**

ヨハネの福音書を含め、福音書全体の結論として、**ヨハネの福音書20章31節**には、こう書かれています。ともに読んで見ましょうか。「**これらのことが書かれたのは、イエスが神の子キリストであることを、あなたがたが信じるためであり、また信じて、イエスの名よっていのちを得るためである。**」と。

**(信じることと、知っていることはどう違うでしょうか。自分で全部頭で、理性で、経験で理解して分かるのは、知っていることで、本当に信じることは、全部すべてを調べられないし、見れないし、すべて経験できないけど、その真実と事実、その真理をそのまま受け入れ、信じる！その時、まさに信仰が必要のではありませんか。)**

今日私とみなさんはイエス様の復活を感謝し喜びをもって礼拝していますが、**みなさんは今、生きておられる神の御前で、心からイエス様の復活の出来事を本当に信じていますか。**

イエス様の復活を身近で迎えた彼らのように我々の心と信仰にもある面イエス様の復活に対する驚きとショックと恐れがあるべきではないかと思えます。我々の問題はイエス様の復活という出来事にはあまりにも慣れてしまい全然感激も驚きもない事かも知れません。

**②二番目に、イエス様の復活に対して注目すべきことは、福音書は全部イエスキリストの復活の始めの証人たちが女たちであると記録されたところです。今日の聖書本文マルコの福音書16章1節に「さて、安息日が終わったので、マグダラのマリヤとヤコブの母マリヤとサロメは、イエスに油を塗りに行こうと思い、香料を買った。」**と書かれています。

**週の始まりの日の朝、つまり今日で言うと、日曜日(よみがえられた主の日)となりますね。主日の朝早く女らはイエス様が葬られていたお墓に行きました。イエス様の十字架の一番近くにいた女たちが**安息の日(土曜日からだと思っていますが、ユダヤ人たちの店頭的な時間観念によると、正確には、金曜日日が沈むときから始まりました)**の翌日、次の朝早く、イエス様のお墓に向かった理由は何でしょうか。イエス様の遺体に油を塗るためでした。イエスキリストが十字架で死なれたのは**金曜日の午後3時**でした。もうまもなく、日が沈むと安息日が始まり、遺体を触れなくなったため、きっと急いで、イエス様をお墓に安置されるのに、遺体に普通に油を塗ったりするととのえる時間がなく、急いで基本的な亜麻布でまく程度で安置されたと推測することが出来ます。**

当時、十字架の上で処刑された罪人の遺体はお墓に安置されることは決してありませんでした！十字架の死刑で死んだすべての遺体はみな鳥や獣のえさとして投げ捨てられたからです。しかし、イエス様は死なれてからも全て旧約の預言の通りに行われていたことが分かります。イエス様はアリマタヤのヨセフというイエス様を信じていた金持ちのお墓に葬られました。それはイエス様がお生まれる700年前にメシヤ、救い主に関する預言の通りでした。**「彼の墓は悪者どもとともに、富む者とともに、その死の時に設けられた。彼は不法を働かず、その口に欺きはなかったが。」**(イザヤ書53章9節)

神様は、この預言が成就されるように、アリマタヤのヨセフを用いて今までだれも使ったことのない洞窟のような墓に三日目まで、イエス様を安置させて下さったのです。ですから、まだ血まみれになったままの姿でお墓で安置されていらっしゃるだろうと思っていた女らがだれよりも早く、イエス様のお墓に急いで来たわけでした。そういうわけで、彼女らは復活の初の証人となり、空っぽのお墓と御使いたちのお告げを通して、イエス様の復活を知り、後には復活されたイエス様に出会える感激と栄光の時を迎える主人公たちとなりました。

愛する信仰の家族のみなさん。一度ゆっくり冷静に考えて見て下さい。

**当時イエス様の時代の女たちの立場と身分は無視され差別される存在でした。代表的な一つの例が、イスラエルでイエス様の時代の女たちは人口調査にも含まれほどの時代でした。女たちの証言や証拠は、法的に認められてない時代でした。もし、神様の御言葉である聖書が、イエス様の復活に対して多くの人々を信じさせるために、弟子たちが作り上げた偽りの物語であったならば、決して女たちからの証人と証言で始まらなかったと思えます。もしあったとしても、わざと抜けてなるべくもっと有力な人や影響力を持つ人、知名度が高い人を選んで書かないとならなかったのではないのでしょうか。**

**聖書が実際起こった出来事のみでなければ、決して女たちをイエス様の復活の初証人として登場させなかったはずですから、言わば、神の御言葉聖書はすべてが歴史的な事実と真実な記録であり、今日このイエス様の復活の出来事も、だれも否定、否認出来ない、真に起こった事実そのまま記録された出来事であったことが分かります。**

**③もう一つイエス様の復活に対する確かな証拠は、イエス様が安置されていたお墓が空いたということです。**

今日の本文3-4節をもう一度ご覧ください。「彼女たちは、「だれが墓の入り口から石を転がしてくれるでしょうか」と話し合っていた。4ところが、目を上げると、その石が転がしてあるのが見えた。石は非常に大きかった。」イエスのお墓にいそいで行きながら、彼女らに一つ大きな心配がありました。封じられていたお墓の入り口の大きな石をどう転がせて中に入ることができるかという問題でした。自分たちではどうしようも出来ないのに、ただイエスキリストの愛する心を持って切なる思いで、心配しながらイエス様のお墓に向かって行ったことが分かります。ところが、イエスのお墓に着いた時、女たちはまったく予想もできなかった光景が現れていました。イエス様のお墓の入り口を封じていたその大きな石！その石は1トン以上であって、男子10人が押してもすぐ簡単には動かされないものが、すでに横に転がされ、お墓の入り口が開けられておいていました！

関連のマタイの福音書28章2-4節を見ると、「すると、大きな地震が起こった。それは、主の使いが天から降りて来て、石をわきに転がし、その上にすわったからである。3その顔は、稲妻(いなずま)で、衣は雪のように白かった。4その恐ろしさに番兵たちは(御使いを見て)震え上がり、死人のようになった。」

愛する信仰の家族のみなさん！神の御使いたちがお墓の入り口の石をすでにころがし、お墓を開けておいたのはなぜだったのでしょくか。墓の中に封じられていたイエス様が出られなかったから助けに、お墓から出られるようにするため開けたのではでしょくか。決してそうではありません。外で来る女たちと弟子たちに、そして、だれにでもイエス様がお言葉通りによみがえられ、そのお墓が空いている姿が見られるようにするためでありました！！

イエス様のお墓についてもう一つ注目したいところは、イエス様のお墓をローマの兵士たちが厳重に見張っていたと言う事実でしょう。本来ならば、お墓をローマの兵士たちが見張る必要何かいっさいありません。そうしなくても男子10人が動かそうとしてもできないほど大きな石でお墓は封じられていたわけですから。

マタイの福音書27章62-66節によると、これはイエス様を十字架につけさせ、殺すことに扇動(せんどう)していた祭司長たちやパリサイ人たちのようなユダヤの宗教指導者たちがローマ総督のピラトに懇請によって、兵士たちをイエス様のお墓を見張るように配置したわけであります。

ところが、どうして、宗教指導者たちはそのように総督ピラトに番兵たちを求めたのでしょうか。ユダヤの宗教指導者たちはすでにイエス様が語られたように三日目によみがえられる事をずっと覚え、どうしてもそれが気になったからでした！

愛する信仰の家族のみなさん！本当にアイロニー(皮肉的)じゃないでしょくか。いざ、イエス様の弟子たちは最初イエス様がよみがえられた事はとんでもないことであり得ないことかのように忘れ、よみがえったイエス様ご自身を見せても疑ったり、すぐ信じがたかく行動したのに、実際、イエスキリストを十字架につけるのに、偽善的で悪質(あくしつ)なユダヤの指導者たちは表では、イエス様の弟子たちとかだれかがイエス様の遺体を盗もうとするかも知れないと理由をイエス様のお墓を見張らなければならないと主張してしまいましたが、彼らの本音は、実際にイエス様の御業をずっと目撃し、よく知っていたので、イエス様が預言された通りよみがえられる出来事に対して知り、恐れを持っていたからでした。つまり、その意味は、実際にイエスキリストのお言葉通り、イエス様の復活を恐れ、彼らは信じていたという事裏付けられるのではありませんか。

マタイの福音書(28章12-15参照)によると、イエス様の復活の知らせを聞いたユダヤ人の指導者たちは、多額の金で兵士たちを買ってイエスの弟子たちがイエスの遺体を盗んでいったと言いつらすようにしました。

愛するみなさん！もしも、イエス様が復活されず、イエス様の弟子たちがイエス様の遺体を盗んだとしたら、イエス様の復活を信じる信仰よりも、さらに大きい信仰が必要になるでしょう。解決されるべき課題がもっと多いからです。例え、①イエス様の石の墓を見張っていた兵士たちが眠っている間、あんなに大きい石がころがされるのに、一人もそれに気づかされなかったのはそれ自体が常識的に納得いかないことであり、到底理解しがたいです。

②かりに弟子たちが、本当にイエス様の遺体を盗んでおきながら、嘘うでイエスが復活されたとするなら、イエス様の弟子たちは遺体を盗んだ罪があります。そしてその罪を問いかけてみんな捕まえて死刑を下すことのできる権力者たちでは周りに多くいたのではありませんか。それにもかかわらず、なぜ弟子たちを拘束(こうそく)せずに、実に出る出来なかったでしょくか。イエス様の復活があまりにも明らかに事実だったし、弟子たちだけじゃなく、すでに多くの人々の中でイエス様の復活が広がっていたから、どうしようもできなかったのでしょくか。

③イエス様の十字架の前での弟子たちの心理状態を見て見て下さい。イエス様の遺体を盗んだのであれば、十字架の上でのイエスを遠くから眺めながら、自分たちも同じくされるのではないかと恐れて逃げて行った弟子たちがいきなり変わって、みんな集まってイエス様の遺体を盗んで、それともイエス様が復活されたかのようにすべての偽りを計画と企みをしたということがあり得るでしょくか。イエス様の復活を聞いてむしろ恐れていた弟子たちではありませんか。後に、イエス様の弟子たちは全員イスラエルだけではなく、他の国々まで行って、復活された神の御子イエスキリストの御救いを伝えながら、全員が殉教者の列(れつ)に入ることになります。イエス様の復活を

自分の目で見て確かめ、その真実と事実を確信しなくて、どうして自分の命まで捨てることができるでしょうか。もし、弟子たちがイエス様の遺体を盗んだとしたら、それがうそだったと告げ口する人が後ででも一人もいないほどみんな良心の呵責もない悪い人たちではないただ、みんな平凡な人たちだったのではありませんか。

#### ④弟子たちがイエス様の遺体を盗んだとしたら、その墓の中の様子が理解できません。

「イエスの頭に包んでいた布は、亜麻布と一緒にではなく、離れたところに丸めてあった。(folded up:畳んでいた)」(ヨハネの福音書 20:7) イエス様の遺体を盗んでいったら、その短い緊迫な時間の間、亜麻布に包んだまま遺体を運ばないといけないんじゃないでしょうか。まだ血まみれになっているイエスの遺体を巻いていた亜麻布をはずして、それだけでなく、イエスの頭に巻かれていた布切れは別のところにたたんでおいて置くおろかな者がいるのでしょうか。これらのすべての証拠を通してでも、少しだけ冷静に考えて見ると、弟子たちが盗んだと言う主張こそ、イエス様の復活を恐れていた者たちが作り上げたいつわりの物語りであって、むしろイエス様の復活を信じさせないためにさらに大きい信仰を持たなければならないほどイエス様の復活は明確な事実である事が分かります。

これ以外にもイエス様の復活を否定しようとした様々な主張がありました。ある人はイエス様が本当は死ななくて、激痛のあまりしばらく気絶(きぜつ)されたのではないかと主張します。実際に死んだのではないということです。これはローマの兵士たちを無視することです。十字架の処刑を知らない人たちの話にすぎません。ある人々は女たちやイエス様の弟子たちが間違った墓に行った可能性があるのではないかと主張します。実際にイエス様が置かれていた墓ではなく、空っぽの墓だったとも主張します。これももっと理解しがたいです。また、ある人々はイエスを愛して信じたゆえにまぼろしを見ただけに過ぎないとも言われます。しかし、愛する信仰の家族のみなさん。一人でもなく、500人以上が同時にみるまぼろしはありません(第一コリント 15章 6節)。ある人はローマの兵士たちが盗んだと主張します。ローマの兵士たちがなぜ命をかけてイエスの遺体を盗んで問題をさらに多くしますか。すぐばれてしまうことにそうすることはできません。最近の説ではイエスは双子だったという主張もありました。イエス様が死んだのは事実だが、もう一人の双子の弟が兄の代わりに、復活されたかのようにしたとのことです。

ただ単純に神の御言葉で書かれている証言通り、信じれば、解決されるものの、信じないようにもがいている人々の姿を見ながら、生きておられる神様は御子まで与え、死なせた、そして、すべての人生の救い主として、永遠の命を与えられる存在として、イエスキリストはよみがえられ、信じられるように現して下さったのにも関わらず、神の救いの御手を最後まで断る人たちを見ながら、神はどんなに悲しまれていらっしゃるのでしょうか。我々はイエス様の置かれていた空いたお墓を見ながら、イエス様の復活をすなおに信じる事が出来ますように心からお祈りします。御言葉以外に付け加えることもなく、抜ける一切必要もない、真理の御言葉のままに信じ、よみがえられ、今もなお信じる者とともにおられる復活のイエスキリストを心から信じる皆さんとなりますように切にお祈り申し上げます。なぜなら、そうしなければ、神の御救いを、イエスキリストによる永遠のいのちを我々が得ることは一切できないと神は聖書にだれも後言いが出来ないようにはっきりと約束して下さっているからです。

「もしあなたの口でイエスを主と告白し、あなたの心で神はイエスを死者の中からよみがえらせたと信じるなら、あなたは救われるからです。人は心に信じて義と認められ、口で告白して救われるのです。(ローマ 10:9-10)」

今日の本文の 6 - 7 節は白い衣を来ていた御使いが現われ言われる場面をしっかりと見て見ましょう。

「青年(御使い)は言った。「驚くことはありません。あなたがたは、十字架につけられたナザレ人イエスを捜しているのでしょうか。あの方はよみがえられました。ここにはおられません。ご覧なさい。ここがあの方の納められていた場所です。7 さあ行って、弟子たちとペテロに伝えなさい。『イエスは、あなたがたより先にガリラヤへ行かれます。前に言われたとおり、そこでお会いできます』と。」

十字架につけられ死なれた神の子イエス・キリストは復活されました。「ここにはおられません。前から言っておられたように、よみがえられたのです。さあ、納められていた場所を見なさい。(マタイ 28章 6節)」

だれでもこの復活されたイエス様を信じ受け入れる者には、罪の呪いにおさめられることなく、死をうちやぶったイエスキリストの永遠の命が与えられると神様は約束されました！

主の復活を信じ、確信しているのなら、イエス様のお墓にとどまらないで、イエス様の復活とそれを信じる者に与えて下さる神の御救いを大胆に分かち合い、証しして行きませんか。イギリスの有名なチャールズスボルジョン牧師はいつも信徒たちにこうお願いしたそうです。「イエス様の空いたお墓をよく確認してみてください。よみがえられた神の御子イエスを信じる私とみなさんのお墓もいつか必ず、そのようにされると信じましょう。」復活の初穂となられたイエス様の空いたお墓のように、我々の墓もそうなる信じます。死んでもふたたび生き返らせられ永遠の御国で永遠のいのちをもって生きると信じます。ついに復活され今もなお信じる我らとともにおられるインマヌエルの主、イエス・キリストの復活を信じる信仰によって大胆に進み行きましょう。イエスキリストの復活を信じる皆さんのお一人お一人の上に神の救いの御業と大なる神の憐れみと祝福が益々豊かに注がれるクリスチャンプレイズチャーチの全信仰の家族となりますように切にお祈り申し上げます。アーメン！